

◆ 国立霞ヶ丘競技場の改築に向けた調査費【新規】 24年度予定額 1億円

建築後すでに50年以上が経過し、競技場そのものが老朽化している。また、2019年に開催が決定しているラグビー・ワールドカップ及び2020年の東京オリンピック招致を視野に入れた競技場の改築に向け、事業規模や事業手法、資金計画など整備方針策定のための調査を行う。

国立霞ヶ丘競技場陸上競技場の概要

大正13年に建設された「明治神宮外苑競技場」を解体した跡地へ、昭和33年に建設。その後、昭和39年に開催される東京オリンピック競技大会の開・閉会式、陸上競技等のメインスタジアムとして使用するため、昭和37年からバックスタンドや夜間照明設備などの大規模な改修工事を行い、現在の競技場が完成。

現在は、陸上競技をはじめ、サッカー天皇杯等各種競技大会の会場として使用されている。



敷地面積	71,707 m ²
建築面積	33,716 m ²
延べ面積	51,581 m ²
構造	鉄筋コンクリート造一部鉄骨造5階建
収容人員	54,224名(車椅子席40名含む)
グラウンド	日本陸上競技連盟第1種公認競技場
芝生	夏芝:ティフトン、冬芝:ペレニアルライグラスによる二毛作で通年緑化を実施

